

第72回「社会を明るくする運動」 調布市意見発表会 意見発表文

学校名	調布市立第六中学校
代表者氏名	浅野 心春 (あさの みはる)
学年	2年
題名	孤独な環境が犯罪への道
本文	
<p>世界には犯罪や非行をしてしまった人や、更生できず再犯を繰り返してしまう人がたくさんいます。犯罪や非行はしてはいけないことがほとんどであり決して許されていい行為ではありません。同様にほとんどの人が犯罪や非行をした人を悪と捉えます。</p> <p>しかし罪を犯したとはいえその人が全て悪いと言えるでしょうか、私は言えないと思います。なぜなら、犯罪をするはずがなかった人を犯罪者に変えてしまうような孤独を感じる環境が多く存在しているからです。犯罪をするような人が増えてしまうのはそのような環境があるからだとは私は考えます。</p> <p>ニュースを見ていても、犯罪をしてしまった人は家庭環境が悪かった、学生時代いじめを受けていた。など孤独を感じる環境で育ってきた人が多いように感じます。孤独だと自分が罪を犯した時に、悲しんでくれる人や叱ってくれる人が存在しない。つまり犯罪をしないためのストッパーとなる人が存在しないということになります。私たちが当たり前を送ることができている日</p>	

常生活を当たり前を送り犯罪とは無縁の人生を送るはずだった人たちが、育ってしまった環境のせいで生きづらさを感じ孤独から逃げることもできずに犯罪をしてしまうというのはあってはなりません。また孤独を感じる環境で生活すると、一度犯罪をしてしまった人の更生も難しくなります。先日私が興味のある事件について調べたとき、加害者の方に「こんな事件を起こした人に生きている価値はない」や「死んで償え」などの心ない言葉をたくさん浴びせている人を見ました。被害者のことを考えると加害者を責めたくなる気持ちもわかりますが、犯罪をしてしまった人が心から反省し、第二の人生を送ろうとしている時にこのような言葉を見てしまったらどのような気持ちになるでしょう。これから罪を償うためにはたくさん努力しても、元犯罪者という記録は残り続け、誰も自分を迎え入れてくれない孤独やストレスを感じもう一度犯罪をしてしまうと思います。加害者だからといって心ない言葉を浴びせていい理由にはなりません。

犯罪を減らし、一度犯罪をしてしまった人が更生できる社会を作るためには、その人たちが感じる孤独を減らすことが必要です。当たり前のことですが、いじめは絶対にしない、周りに悩みを抱えている人がいたら相談」にのるなど些細なことですが私達に出来ることはたくさんあります。一人一人がこの問題としっかり向き合いみんなで明るい社会を作っていきたいです。